

9 月 25 日 10:00 下記発表論文および補足資料の訂正について

海水中トリチウムが魚で周囲の濃度を超えて蓄積しないことを飼育実験により実証
(実験結果が Science of the Total Environment 誌に論文掲載)

9 月 25 日 10:00 付の表記のプレスリリースにつきまして、当該論文(オープンアクセス)の一部に誤りがあり、9 月 29 日付で修正がなされました。これに伴ってプレスリリースの補足資料の一部を下記の通り修正させていただきます。

- ・修正資料: 表記発表資料の内の【補足資料】
- ・修正箇所: 「3. 今回の成果」の最終段落
- ・修正内容: (下線部)

[修正前]・・・ことにより、約 100 Bq/kg-生鮮重で平衡に達し、これ以上は高くないという推定結果になりました。なお、このシミュレーションの条件で飼育したヒラメを食品として 1 年間摂取し続けた場合、実効線量は 0.0019 mSv/年と見積もられ、一般公衆の被ばく線量限度である 1 mSv/年を大きく下回ることを確認できました。

[修正後]・・・ことにより、114 Bq/kg-生鮮重で平衡に達し、これ以上は高くないという推定結果になりました。なお、このシミュレーションの条件で飼育したヒラメ(114Bq/kg-生鮮重のトリチウムを含有するヒラメ)を食品として 1 年間摂取し続けた場合、実効線量は 0.0019 mSv/年と見積もられ、一般公衆の被ばく線量限度である 1 mSv/年を大きく下回ることを確認できました。

・掲載論文:

題名: A deuterium tracer experiment for simulating accumulation and elimination of organically bound tritium in an edible flatfish, olive flounder

(重水素をトレーサとしたヒラメ中有機結合型トリチウムの蓄積と排出に関する実験)

著者: Takashi Tani(谷享: データ解析、論文執筆)、Yoshio Ishikawa(石川義朗: 飼育実験、分析)

掲載誌: Science of the Total Environment

(<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0048969723054177>)

掲載日: 2023 年 9 月 6 日(上記 URL にて公開)

修正日: 2023 年 9 月 29 日

DOI: <https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2023.166792>

なお、本訂正に伴う本報告の主旨や結論への影響はございません。
誠に申し訳ございませんでした。

問い合わせ先: (公財) 環境科学技術研究所 共創センター 共創推進課 伊藤
電話 0175-71-1240 Eメール kanken@ies.or.jp
所在地 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駁字家ノ前 1 番 7
HP <https://www.ies.or.jp/>

当研究所は、六ヶ所村に建設が進められている核燃料大型再処理施設から排出される放射性物質の環境中での挙動や低線量放射線の生物影響について青森県からの委託を受けて調査・研究を行っています。